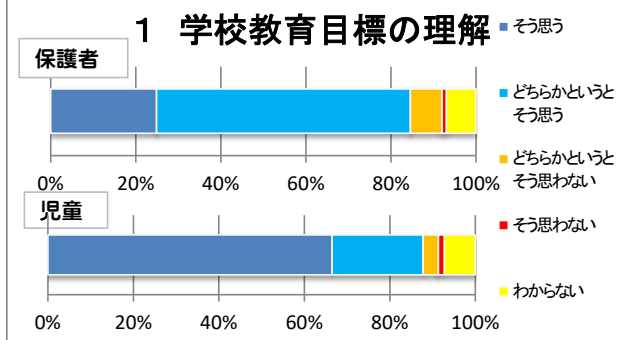




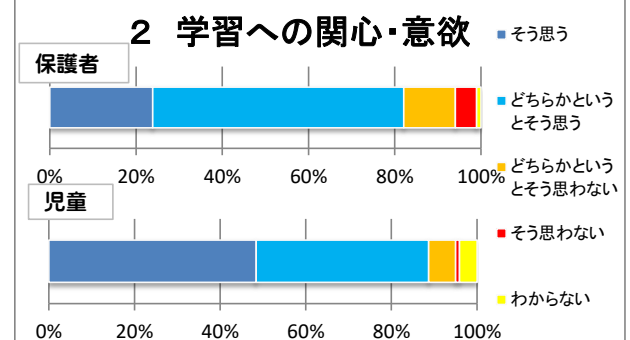
過日実施いたしました教育活動アンケートの結果を公表いたします。皆様からの貴重な御意見を今後の活動の参考にしたいと思っております。お忙しい中、御協力ありがとうございました。保護者回答201名、児童回答221名でした。

学校の教育方針や教育目標を知っているか。



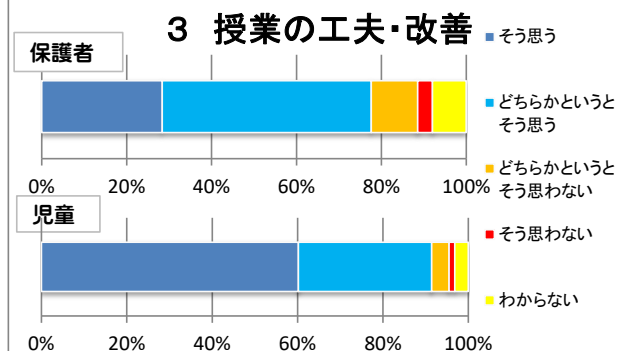
学校教育目標は、保護者のそう思う割合が昨年度18%だったのに対し20%を超えた。保護者の学校に対する関心の高さと、継続的な広報活動の成果と考える。ホームページや行事、便りなどで今後も継続的にアピールしていく。

進んで学習に取り組んでいるか。



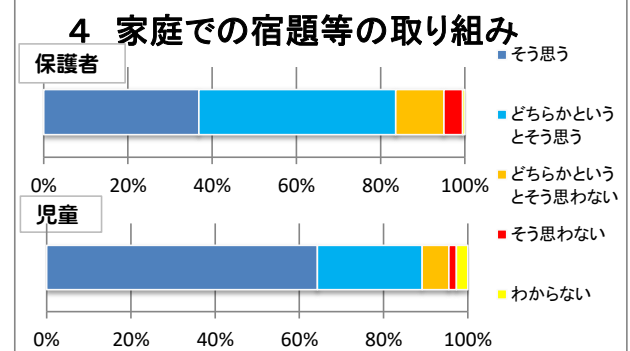
昨年同様、全体的に学習への関心・意欲は高い。しかし、20%近い保護者や約10%の児童は、否定的な回答がある点は、昨年同様である。教育課程のあり方や学習内容の見直し、ICTの活用を含めた授業改善に取り組んでいきたい。

授業が分かりやすいか。



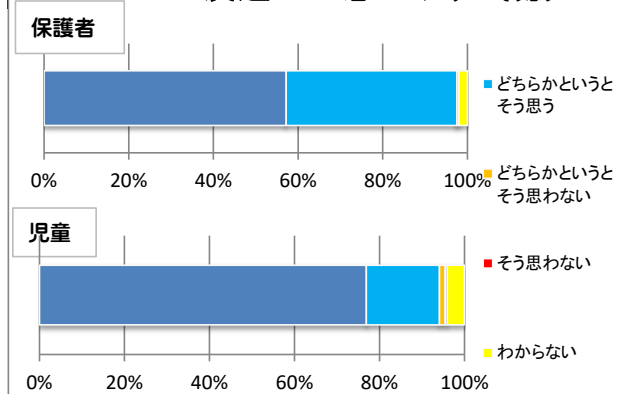
前年度とほぼ同じ割合であった。低学年からパソコンの活用機会を増やし、4年は、ロボッチャ、5年は、エシカル消費運動、6年はファーストリーグへの参加など、児童が興味を持てる取り組みを充実させてきた。昨年度は、導入ということもあり、不慣れな部分もあったが、昨年度の経験を生かし、活動自体も落ち着いて行うことができた。他の学習とのバランスが課題である。

家庭で宿題や課題・家庭学習に取り組んでいるか。



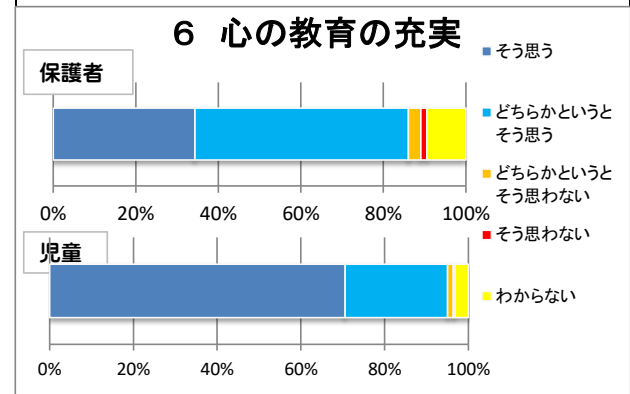
昨年度の大きな違いは、保護者と児童の認識の違いが見られた。全体的には、多くの児童や家庭が取り組んでいるが、「そう思う」という保護者が昨年より減、児童が増という状況である。児童はやっているのに、保護者には見えない状況があるのか、保護者の期待に応えられていないのか。取り組み方を検討する。

5 友達への思いやり



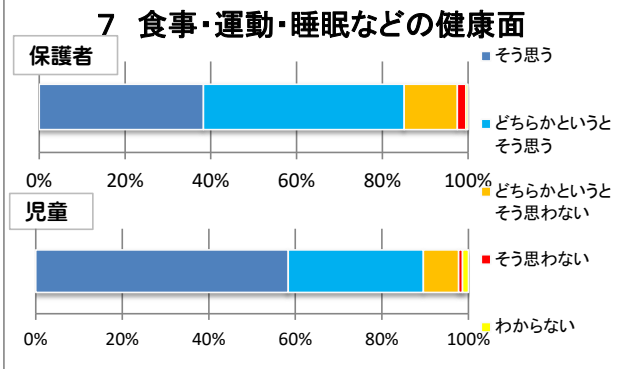
他社への思いやりに関する質問では、9割近い肯定的な意見がみられる。そう思わない、わからないと答える児童が12名いるので、児童の様子を見ながら個別に対応していく。もう一点留意すべき点は、肯定的な意見のなかの「どちらかといえばそう思う」割合が増加している点である。「どちらかといえば」になった背景を考慮し、保護者にも伝わる児童の姿勢や広報活動が必要である。

豊かな人間性を育む心の教育の充実に努力しているか。



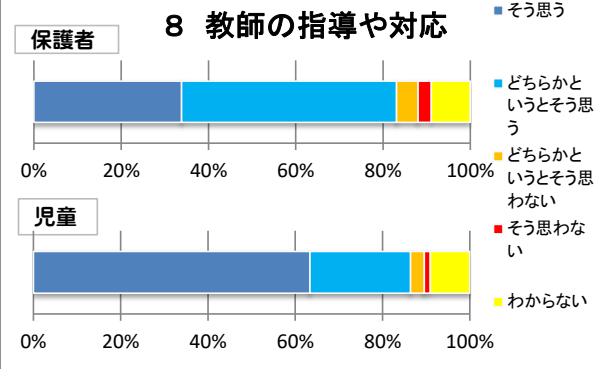
保護者の「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合は、減少傾向だが、「わからない」という回答が増加した。5.友達への思いやり同様、児童の回答と保護者の認識にずれが生じている点から、保護者が気づいたり、情報を得たりする活動が十分でないことがわかる。心の教育の充実（道徳や情報探究のデジタルシチズンシップ）への取り組みを工夫していく。

健康に気を付けて生活しているか。



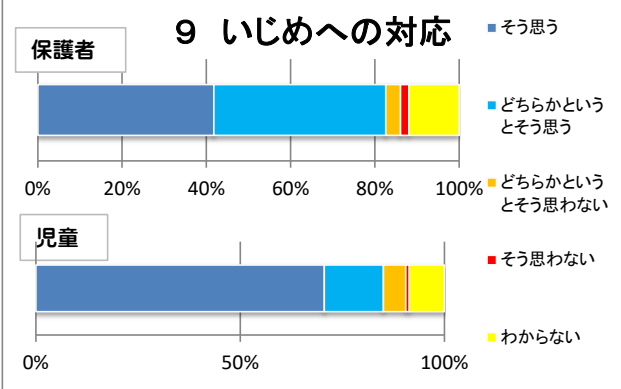
健康面については、昨年と同等の結果であった。全体的に肯定的であるが、否定的・消極的な回答が一定数見られる。朝ご飯を食べない、または、食べられない。夜更かしなどによる睡眠不足による体調不良などが、状況としては見られる。家庭的な問題で関係機関に協力をお願いすることと本人の生活習慣の問題で家庭と強力して進めることを見極め、改善するよう対応していく。

1人1人を大切にしたい指導や対応ができていると思うか。



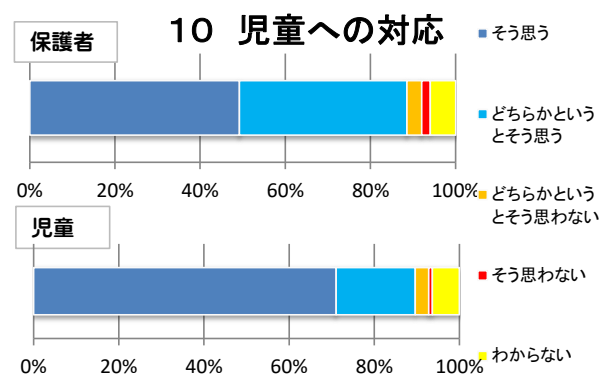
「わからない」という回答の割合が昨年同様多い。全体的に8割以上の肯定的な意見から、職員は、児童の様子に気を配り、丁寧に対応していることがわかる。「わからない」は、その児童との関わる機会があまり取れなかったのか、児童や保護者が納得できなかった状況があったのかの可能性もあるので、一人一人を大切にしたい指導は、常に意識して取り組んでいく。

いじめがあったとき、すぐに話を聞いて対応してくれると思うか。



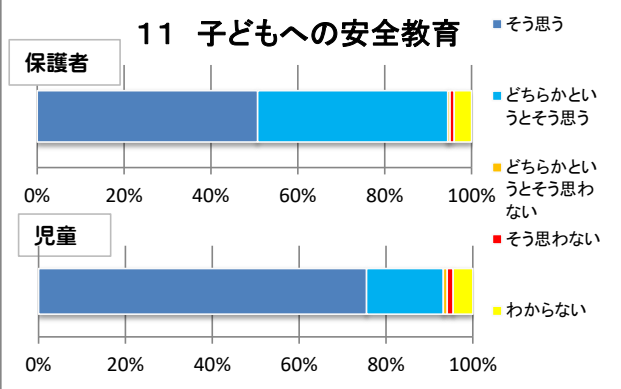
いじめの対応も「わからない」の割合が多い。否定的な意見と合わせ、予防的対応として、いつでも相談できる体制が保護者や児童にとって十分でない可能性がある。SOSの出し方指導や複数での対応、相談体制の充実、外部機関との連携など、体制維持に努めていく。肯定的な回答の「そう思う」の割合が昨年より増加していることから、いじめに対し、迅速に対応できていることは、認められていると考えたい。

困ったことがあったとき、すぐに話を聞いて対応してくれると思うか。



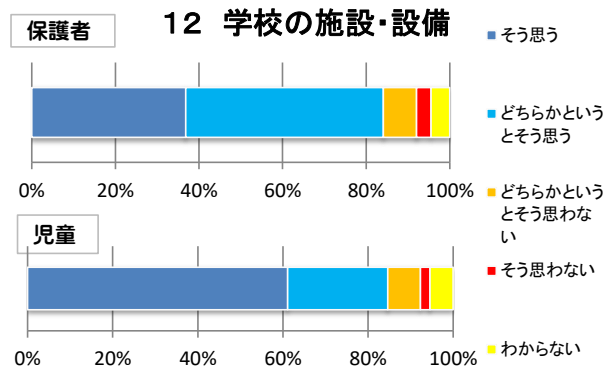
児童の「そう思わない」の割合が昨年より減少している。教育相談期間、学校生活アンケートを定期的実施し、児童の把握に努めた。デジタル相談箱の利用率は、昨年同様0%に対し、保健室前に設置した教育相談ポストへの投函回数が増えた。(主に低学年から)担任以外の先生にも相談したいという希望と解決よりも話を聞いてほしいという相談もあり、相談しやすい環境を構築できた。重大案件については、SCや関係機関と連携し、丁寧に対応していく。

事故防止などの安全教育に取り組んでいると思うか。



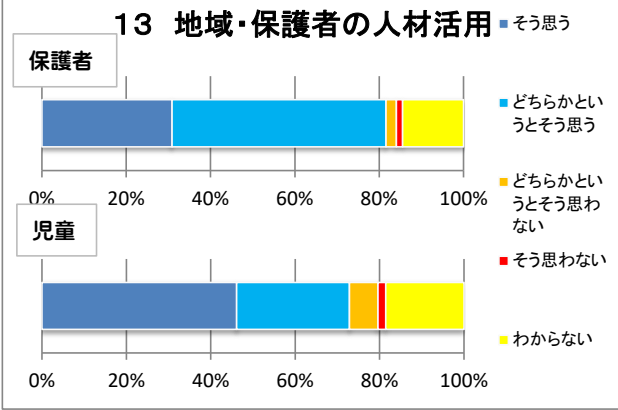
交通安全指導をはじめ、交通安全教室、防犯教室、避難訓練、不審者対応訓練、安全に関する指導は、年間を通じて計画的に行っている。肯定的な意見が児童・保護者とも9割近くを占めているので、安全指導については、保護者や地域と連携しながら、継続して行っていく。

学校の施設・設備は整っていると思うか。



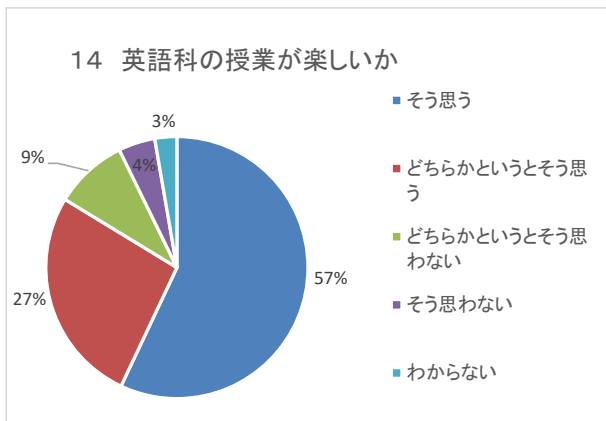
現在、改修工事のため不便に感じているかもしれない。体育館の冷暖房設備の設置の要望が自由記述で見られた。ICTに関しては、ノートパソコンや大型モニター、プログラミング教育用ロボットなど、非常に充実した環境にある。多くの児童や保護者が肯定的な回答であるが、否定的な意見に関しては、一部の利益だけにならぬよう有益な環境整備に努めていく。

市や地域の環境・施設・人材を生かしていると思うか。

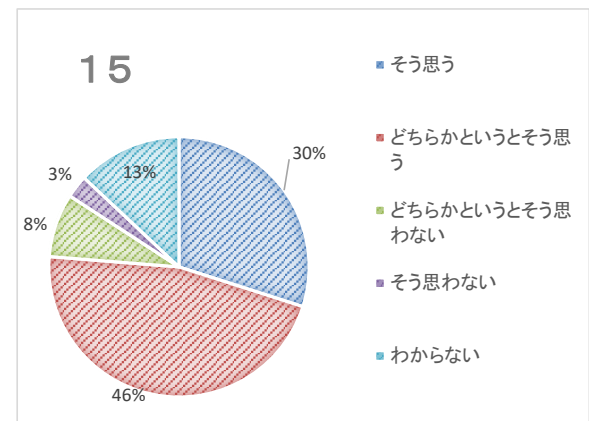
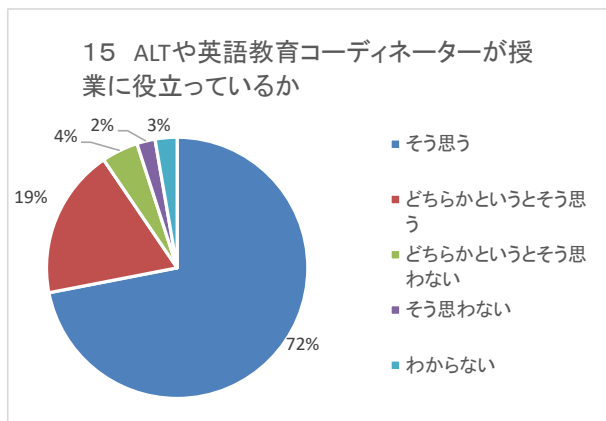
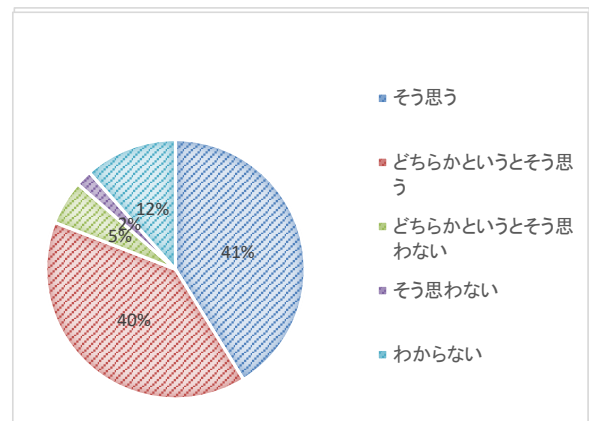


すべての質問の中で、最も「わからない」という回答が多い。地域の方による交通安全指導や読み聞かせボランティアなどの協力いただいているが、保護者や地域の協力を得る機会を、コロナ禍以降失っている。協力者についても一部高齢化も進み、協力が困難な状況も出てきている。協力体制の再構築が急務である。

R6英語に関するアンケート（児童）

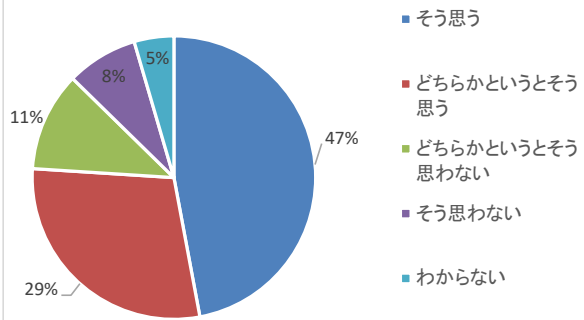


R6英語に関するアンケート（保護者）

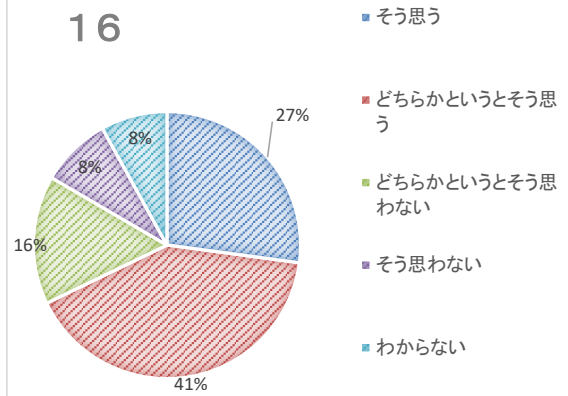


令和6年度より、1年生から6年生まで、全学年で英語を実施した。（通常は、3・4年英語活動、5・6年英語）、保護者と児童とも関心は高い。英語教育コーディネーターによる授業準備やALTの授業サポート等環境も充実している点も、肯定的な意見が多い理由であると考えられる。

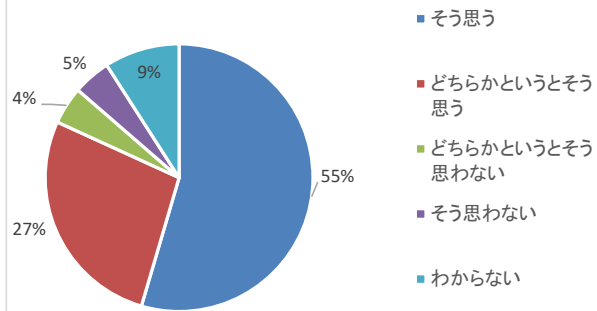
16 英語科によって、英語を話したり、聞いたりすることが好きになった。



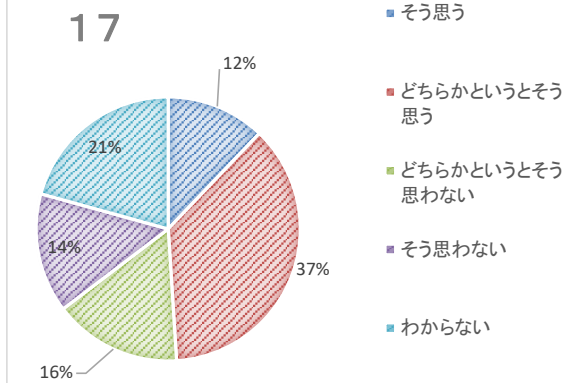
16



17 英語科を通して英語の力が伸びたか



17



英語を聞いたり、話したりすることへの興味の向上と英語科による自身の英語力の向上を肯定的に捉えているのに対し、英語科の成果に対する保護者の反応は、児童ほどではない。英語科が始まって1年たった。児童の内面的には、関心を高めるなど肯定的な成果を得ることができたが、外面的に、学習の成果が目に見えて感じられていない状況があることに留意し、次年度の取り組みに生かしていく。